

Saiyu Fund

[西遊基金]



西遊基金



OB/OGの皆様からのご支援に感謝します

以前のChohoでご紹介したサークル活動支援基金について、多くの反響があり、寄附のお申し出をいただいております。皆様からのご支援誠にありがとうございます。今回は実際にこの基金を通じて、寄附を受け取った部の顧問や現役学生のコメントを紹介します。



医学部弓道部

強くなった弓道部 西遊基金を通じて応援

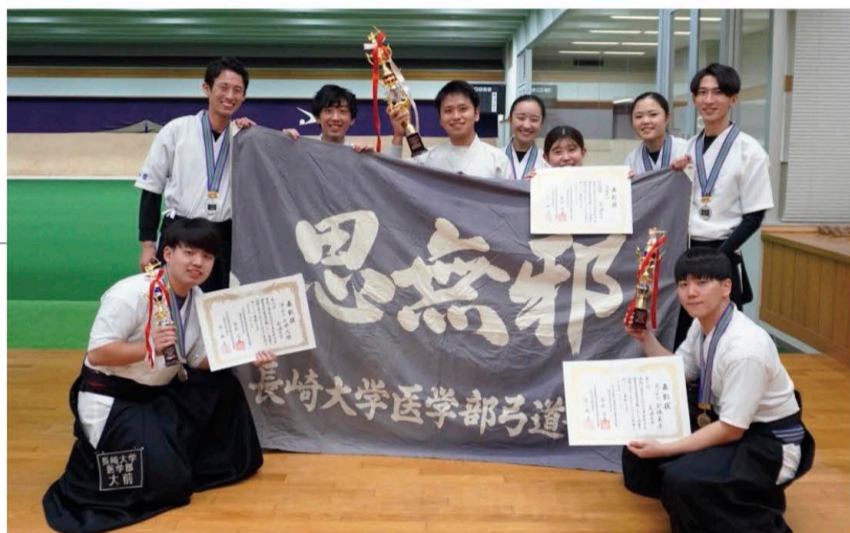
長崎大学病院 腎臓内科 西野友哉 教授

長崎大学医学部弓道部では、現役部員たちの雑感などをまとめた部誌『銀箭』を発行しています。完成した部誌は、部員自ら県内のOB、OGを訪ね直接お渡しし、近況報告と併せてご寄附のお願いをしています。この活動は、私が弓道部員だった頃から続いている伝統ですが、研修医制度等の変



更後は県外に出るOB、OGも少なくありません。以前に比べて、先輩、後輩のつながりが希薄になったと感じる中、数年前、弓道場の建て替えを行うタイミングでメンバーリストを作成しました。

昨年10月、「全日本医科学生体育大会王座決定戦」が秋田県で開催されました。その前哨戦となる「西日本医科学生総合体育大会」で優勝を果たした我が弓道部でしたが、喜びもつかの間、頭を悩ませたのが、長崎と秋田を往復するための遠征費です。相談を受けた私は彼らに西遊基金の存在を伝え、メンバーリストで全国のOB、OGの皆さんに寄附を呼びかけました。その結果、短期



全日本医科学生体育大会王座決定戦で準優勝しました。

間で多額の寄附が集まり、無事に全国大会へ出場。さらに準優勝という、創部以来初めてとなる輝かしい成績を納めることができました。

対面で寄附をお願いする活動とともに、メンバーリストや西遊基金を活用し、特にクレジットカードで簡単に寄附できたこと

が、短期間でより多くの支援を集める要因になりました。加えて、弓道部の“強さ”も支援につながったのでしょう。ぜひ今後も勝ち続けて、先輩方へ応援に代えてもらいたいですね。ご支援をいただいた皆様には、いつか直接お礼をお伝えできる機会を設けられればと思っています。

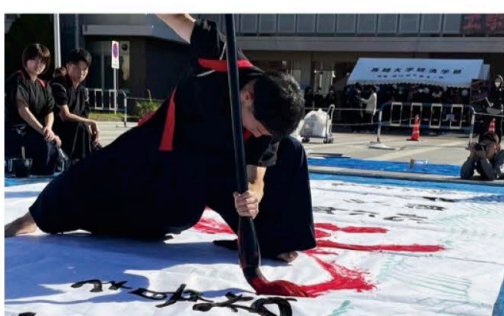
ご支援ありがとうございました!

部長 福海直人さん

現在、弓道部は43人で活動しています。練習日は週3日と限られているため、いかに内容を濃く、効率の良い練習ができるか模索しながらがんばっています。全国大会には控えを含み7人で出場し、ご支援のお陰で競技に集中することができました。これからも弓道を楽しむ気持ちを念頭に置きながら、がんばっている姿をお伝えしたいと思います。応援をよろしくお願いいたします。



全学書道部



皆様のご支援により、筆を購入し、より良い環境を整えました。ご支援への感謝を忘れることなく、大切にに使わせていただきます。

水産学部端艇部



今後も大会で良い結果が残せるように、ご支援で購入したオールをフル活用して、たくさん練習を重ねていきたいと思っています。ご支援ありがとうございました。

龍踊部



ご支援ありがとうございます。これからも長崎の伝統芸能である龍踊りで、全国のたくさんの方々に元気と幸せを届けていきたいと思っています。

CROWDFUNDING

クラウドファンディングを実施中 寄り添うチーム医療を目指して

長崎大学病院 がん診療センター長 芦澤 和人

長崎大学病院がん診療センターでは、がん診療に関わる医療従事者(医師を除く、看護師、薬剤師、作業療法士など)育成に必要な費用を得るため、クラウドファンディングを開始しました。

がん治療は医師だけでなく、がん診療に携わる専門資格を持った多職種の医療従事者も加わったチームで対応することが一般的になっています。チーム医療によって、私たちの目指す「不安を抱える患者さんに寄り添い、より良い形でがん診療を提供すること」が実現できるのです。しかし、近年がん患者が増加する一方で、その専門資格を持つ医療従事者が減少しており、COVID-19の影響により、その状況はますます悪化しています。そして、これは多くの病院が抱えている共通の問題でもあります。このままでは、私たちが大切にしている「患者さんの

ご不安に寄り添うチーム医療」を、十分な質で提供できなくなる恐れも出てきました。

この先も、がん診療のプロフェッショナルチームを中心に、がん患者さんに寄り添う体制を継続し、より良い診療を目指すためには、「人」の育成が不可欠です。がん診療に携わる専門資格を持った医療従事者の認定や育成、人数の拡充は喫緊の課題となっています。

しかし、がん診療に関わる認定・専門資格の取得のハードルは高く、また、高額な費用についても自己負担により対応しているのが現状です。

そこで、私たちはクラウドファンディングを実施し、広く皆様にご支援をお願いしたいと考えました。皆様のご寄附は、がん診療に携わる専門資格を持つ医療従事者育成のためのセミナー受講費用等

クラウドファンディング

期間：3月15日まで



多職種の医療チームが対応しています。

に活用させていただき、まずは10名の資格保有者の増員を目指します。

この人材育成は、必ずや地域のがん診療の向上につながるものと確信しております。がん患者さんにより良い医療を受けていただくため、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

Homecoming Day

タイ・バンコクと中継した 初のグローバルホームカミングデー

ホームカミングデーは、卒業生・修了生はもちろんのこと、教職員や地域の皆様を対象に開催しています。大学の状況をご報告するとともに、無料の交流会(食事会)を通じて、交流を深めていただいております。

12回目となる今回は、令和5年11月4日に学園祭で賑わう文教キャンパスで開催。長崎会場に約140名、同時開催のタイ・バンコクのグローバルホームカミングデーには96名が参加しました。第一部では、永安学長から今後のビジョンについて発表後、大学の発展に貢献された相川忠臣名誉教授に校友会賞を、多大なご支援をいただきました方々に感謝状と記念品が贈呈されました。

講演会では、本学経済学部出身の秋本修治氏(極東ファティ株式会社代表取締役社長、日本スペシャルティコーヒー協会会長)が「劇的に変わりゆくコーヒー業界とファティのコーヒー戦略」と題して講演し、コーヒー好きな教職員から、起業を目指す学生まで幅広く楽しんでいただきました。



メインイベントとして、変面ショー(中国の伝統芸能)が披露されました。



大学のビジョンを語る永安学長。

Community Exchange Meeting

令和5年11月20日 長崎大学交流会を開催

永安学長が就任して初めての交流会を長崎市で開催しました。今回は、長崎市を中心に本学とご縁のある大学の取引企業代表者、関連病院、西遊基金寄附者などをお招きし、日頃のご支援に対する感謝とともに教育・研究活動の紹介を通じて理解を深め、ご期待やご要望を伺うことを目的に開催しました。

第一部では永安学長の挨拶に続き、鈴木史朗長崎市長にご挨拶いただきました。その後、永安学長から大学のビジョンについての発表があり、続く講演会では、大学院プラネターヘルス学環長の渡辺知保教授が「プラネターヘルスとは何か」と題して講演。第二部では、西遊基金へ多大なご支援を賜りました、医療法人慈恵会小江原中央病院名誉院長の今西建夫様に感謝状を贈呈しました。

今後も県内外においてこのような場を設け、学内の情報発信を継続していきたいと考えていますので、多くの関係者の皆様ご参加をお待ちしております。



交流懇談会では、学生サークルよさこい部「突風」が登場。華やかな演舞に、会場全体が盛り上がりました。



ホームカミングデーは令和6年度も開催予定です!

いち早くホームカミングデーの開催案内をお届けします。校友会メールマガジンにご登録ください。

西遊基金

「西遊基金」は、長崎が長年にわたって培ってきた個性と伝統を基盤に、地域の発展から地球規模の課題まで、種々の問題を解決するための傑出した人材育成を目指した、長崎大学独自の修学支援、さらに教育・研究の幅広い支援を目指した基金です。



西遊基金に関する情報はこちらからご覧いただけます。

